

## ヤマザクラ

2017 年(平成 29 年)4 月 20 日(木)発行

## 最近の森林ボランティア活動調査結果から感じたこと

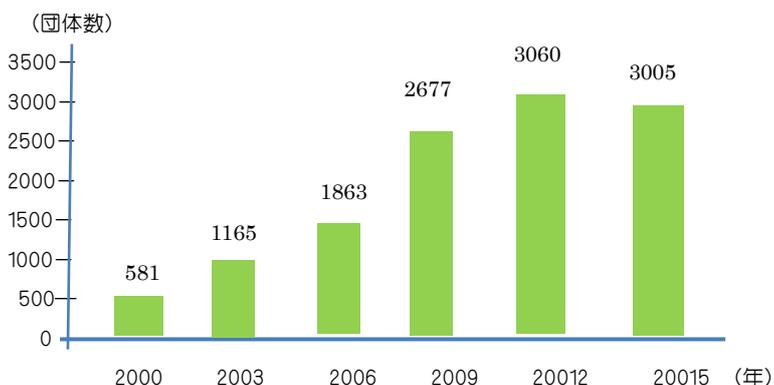
松崎和敬

森林ボランティア活動はいまから 40 数年まえに植林地への除草剤散布による環境破壊を危惧した草刈り十字軍が富山県において人力による草刈りを行ったことが契機になったといわれております。その後、ボランティアによる森林づくり活動は年々増加し行政にも受入れるようになり、2000 年代をとおして団体数を増加させ拡大してきました。ところが 2010 年代に入って森林づくり活動のおかれる状況が変化しつつあることが明らかになってきました。

2015 年度に林野庁が実施しました「森林づくり活動についての実態調査」の集計結果がまとまり、その内容について今年 2 月詳しく聞く機会がありましたのでその概要を報告致します。

1.年々拡大してきた森林づくり活動団体数がはじめて減少しました。

＜森林づくり活動団体数＞



2.団体内で高齢化が課題となり、参加者やスタッフの確保に関する苦勞が出てきているところがみられるようになっている。

調査後の動きですが、草刈り十字軍が 43 年の歴史の幕を 2016 年 6 月におろしました。県では国内外で実績のあった NPO 法人緑の協力隊が 1017 年 3 月に解散しました。

3.森林づくり活動の制度化と拡大の帰結として、一方で活動の核となる作業が定まり、他方で活動の外延の広がりがみられるようになったことである。

前者は「里山林等の身近な森林の整備・保全」を活動目的とし(80%)「下刈り」を作業として実施すること(71%)が、活動の核となっていることにみられる。後者の外延への広がりは、作業内容として挙げられる項目が、保育にかかわる作業にとどまらず、主伐や搬出など森林資源の利用にかかわる作業に関するものへと幅をひろげている。

また森林環境教育、社会貢献活動、森林の普及啓発、地域づくり、生物多様性保全等主な目的にしている団体も見られるようになっている。

以上、実態調査結果についてふれましたが、そのなかで感じたことは、本会が、2001 年 10 月に発足してから現在まで 16 年 6 ヶ月経過してきたなかでの活動内容を振り返ってみますと全国的な流れのなかで本会もあったように思いました。

日本の人口構成の変化から定年年齢は 65 歳以上となり 70 歳位まで働く人が多くなっている現在において本会の今後の活動のあり方はどうあるべきか、スタッフ体制を含めて考える時期にきているようです。

このような中で、平成 28 年度には、はじめての取り組みを 2 つ行いました。

一つは会津の NPO が行う「自遊学キャンプ」支援です。小学生約 20 名が一泊二日 4 回を 1 クールとしたもので、2 クール行いました。

文字どおり自由に遊んで学ぶキャンプで昔の山遊びそのものです。本会スタッフも会津の NPO のスタッフと一緒に取り組みました。

もう一つは、国際ワークキャンプの受け入れです。

この内容はヤマザクラ第 19 号、第 20 号でも報告しましたが、通算 3 回延 31 日間一緒に行動をとともにしたなかで、一番感じたことは若い人達とくに若い女性の元気ででした。

現役だった 20 世紀の終り頃の状況とはかなり変わってきているように思いました。20 歳代の若い人達のなかには農山村で生活したり、自然の中で働くことについて興味をもっているものも少なからずいることがわかり、関西中心に活動している林業女子会の取り組みについても理解できました。



自遊学キャンプ H28.05.22 田植え



第 1 回国際ワークキャンプ H28.09.25 下刈り



第 2 回国際ワークキャンプ H28.11.14 下刈り作業を終えて



第 3 回国際ワークキャンプ H29.03. ススキ除去を終えて

本会は地元の人達の支援と協力により恵まれたフィールドを持っておりますので、これを有効活用しながら若い人達を含む多くの人達に利用してもらうためにどうすべきか考えるキッカケをいただいたように思いました。

## 目次 主な内容

P

### 最近の森林ボランティア活動

調査結果から 松崎和敬 . . . . . 1

森林整備班の活動 . . . . . 3

森林整備班の定例活動

海岸林再生整備参加者

農作業 2017 春の活動報告 . . . . . 5

木工クラブの活動 . . . . . 4

IWAKI 里山交流フェスタに参加 . . . . . 5

キノコ班の活動 . . . . . 5

プログラム勉強会グループ活動 . . . . . 6

小学校等における学習支援活動

その他の活動

第十三回通常総会のご案内 . . . . . 6

明星大学自然体験プログラム研修支援終える

ろうきん森の学校 . . . . . 7

開催日 1.平成 29 年 2 月 19 日

2.平成 29 年 3 月 19 日

3.平成 29 年 4 月 16 日

自然観察班活常緑樹の森の観察会 . . . . . 9

金成公園岩出の郷森林整備 . . . . . 9

成二九年度「ろうきん森の学校・自然

観察班」事業計画について . . . . . 10

国際ワーキングキャンプ . . . . . 11

湯ノ岳山荘水不足奮闘記 . . . . . 12

# 森林整備班の活動

(伊藤)

## 1.森林整備班の定例活動一覧表(1/18~4/15)

月/日	曜	実施項目	参加人数
1/18	水	栗園跡地育樹際の苗木の調査と山荘周辺の整備(チップパー)	6
1/21	土	杉苗への散水設備工事	6
1/25	水	杉苗への散水設備工事	6
2/1	水	山荘周辺の整備(チップパー作業)	5
2/4	土	キクラゲほだ木の切りだし	4
2/8	水	山荘週辺整備。コナラの玉切とソメイヨシノ林床の下刈り	7
2/15	水	山荘周辺の整備とIWAKI里山交流フェスタの準備	5
2/18	土	IWAKI里山交流フェスタに参加(檜の丸太切体験を出店)	6
2/22	水	山荘周辺の整備	4
3/1	水	ソメイヨシノの手入れ	4
3/4	土	大径木(コナラ)玉切作業	4
3/8	水	大径木(コナラ)玉切作業 杉苗への散水設備工事	5
3/18	土	杉苗のポット移植作業	4
3/22	水	杉苗のポット移植作業	5
3/29	水	杉苗のポット移植作業	5
4/1	土	杉苗のポット移植作業	3
4/5	水	〃 準備・キノコほだ木搬出	3
4/15	土	薪材の搬出	2
計		稼働日数 18日	(延) 81

今回の活動は、杉苗へ散水設備工事や苗木のポットへの移植などに関する作業が活動の主力でした。

なお 4/10~4/15 は多くの会員の協力で杉苗 17000 本のポット移植作業を実施しました。



杉苗のポットへの移植作業

また、2/18(土)に開催された「IWAKI里山交流フェスタ」当日は定例整備日でしたので森林整備班メンバーを主に参加しました。(p5)

今後の活動予定は、山荘薪ストーブの燃料の確保が主力となります。

燃料材コナラとクスギの玉切・材の山より搬出・薪割り木小屋への積み込み等の作業を予定しております。是非ご協力をお願い致します。



キクラゲのほだ木(アカメガシワ)切り出し

## II.海岸林の再生整備参加者数

(松崎)

(2017.1~3月)

月/日	整備内容	本会 トチギ	ボラン ティア	その 他	計
1/14	地拵え、補樹	2	6	—	8
2/4	地拵え、補樹	1	6	—	7
2/11	地拵え、補樹	1	5	—	6
2/25	地拵え、補樹	1	5	—	6
3/25	植樹	5	32	—	37
3/25	地拵え、補樹	5	11	—	16
3/26	地拵え、補樹	5	11	—	16
	計	20	76	—	96



2016(H26)2.2 うつくしま 21 森林づくり  
ネットワークの方々が植樹された区域

## 農作業 2017 年春の活動報告

農作業班 太田 満

### 1.年初め恒例、畑の寒起こしの作業を行いました。

1/14～2/13にかけて、約300坪分をスコップで起こして良い運動になりました。

その後、2/11に籾殻(ブルーシートでカバー)を畑に投入し耕運機で耕しました。



畑の寒起こしの作業

### 2. さつま芋の苗作り用の温床作りと苗の育成

恒例となった、さつま芋苗作り用の温床を始めました。

2月14日、種イモの伏せ込み。4月3日、発芽して苗が育成中です。

### 3. ワークキャンプの農作業体験

3月6日、5名の若者たちが笠石の畑で農作業の体験を行いました。



堆肥づくりを体験するワーキングのメンバー

### 4. その他

- 1) 2月、水不足のため、ポリタンクで畑の貯水槽に水を運搬(1400L)。
- 2) イノシシ避けのフェンスが強風により傾いたので、杭(檜と竹杭30本以上)を打ち直して補修。
- 3) 2/6、堆肥作り用に落ち葉を集め、畑に運搬(軽トラ1台)。
- 4) 3/13、長ネギの種(自家採種)蒔き。3/20、じゃが芋の植え付け作業など。
- 5) 3/25、チップパーでできた木枝チップを山荘から畑に運搬、堆肥作りとマルチングに使用する。

## 木工クラフト班の活動

桑原敏和

木工班のH29年1～3月の活動

木工班は今季に女性1人が退会して7名になり、総勢17人となりました。

今年度下期から男性はヒノキ製椅子作りをしていましたが、ようやく大作を完成しました。これは角材の繋ぎ部分が直角ではなくとても苦勞をしました。写真は座り心地の良さが感じられているようです。

女性は生活に密着したキッチンペーパーホルダーを作成した写真です。可愛いキャラクター等が印象的でとても使用が楽しい出来栄えとなっています。

[木工班は毎月第1、第3火曜日に実施]



キッチンペーパーホルダー(女性)



自慢のヒノキ製椅子にて(男性)

## IWAKI 里山交流フェスタに参加

2月18日(日) 県いわき地方振興局と IWAKI ふるさと誘致センターの主催で、いわき市の山間地域の産品や文化の魅力を紹介する「IWAKI 里山交流フェスタ」が小名浜さんかく倉庫で開催されました。

本会もこの交流会の主旨に賛同、理事長を含め会員6名で対応、来場者に鋸によるヒノキの丸太切を体験して頂きました。

体験者は小学低学年の児童が主となり 64組の方々が体験されました。丸太切には思ったより手鋸が人気で大鋸の体験者は少数でした。

結果は予想以上の人気があり、ヒノキの香りを含めて十分楽しんで頂いたと思っております。



丸太切と見学の来場者



兄弟で丸太切に挑戦

### 今後の参考事項として

参加して今後の参考や留意点としてまとめました。

- ① 参加者に対してヒノキ丸太が太過ぎでした。小径丸太を準備が必要です。
- ② 丸太固定台が低く無理な姿勢となり鋸を引く力が十分発揮出来ない体験者がありました。台の高さを複数準備の必要があります。
- ③ 大鋸の目立てが必要である。
- ④ 本会のパンフレットを作る必要がある。

(会の活動を市民の皆様へPRが必要と思います)

## キノコ班の活動 荒川、松本

今回のキノコ班の活動は、ハタケシメジ、ナメコ、マイタケの圃場の整備と、今年は雨が少なく乾いたシイタケのほだ木への散水に努めました。



キノコハウスの内部(シイタケの本ぶせ)

植菌については「ろうきん森の学校」での植菌体験活動でシイタケとキクラゲを実施し仮ふせをしております。



シイタケの仮ふせ

はだ木の数量についてはシイタケ：コナラ 35本、キクラゲ：アカメガシワ 35本です。

現在シイタケが出初めております、今年は雨が少ないので散水がポイントと思っております。



4/8 現在のシイタケです

今後はシイタケの収穫とクリタケの植菌を予定しております。

## プログラム勉強会グループの活動

佐藤 烈

1 この四半期は次のとおり学校等の支援を 5 回行いました。

(1) 学校等における学習支援活動 (1/1～3/31)

月日	学校名	学年	学 習	参 加 者	支 援 者
1/19	湯本第1幼稚園	年長 年中 組	木工クラフト	21	7
1/26	平6小	3	総合学習	39	9
2/9	中央台北小	4	総合学習	65	8
2/16	平6小	3	総合学習	39	11
2/20	錦東小	3	総合学習	23	6

以下に1月19日に実施した湯本第一幼稚園での木工クラフト支援と1月26日と2月16日に実施した平第6小学校での総合学習の支援の概要を報告します。

幼稚園における木工クラフトはこのところ年次行事として定着してきました。湯本第一幼稚園は従来冬年明けに行われてきました。今年度も1月19日に行われました。

ただ今年には作る物を検討し、メッセージボードを作ってもらいました。作っている姿は写真のとおりです。



木工クラフト作りに夢中

平6小の総合学習支援は年間6回です。その5回と6回が今期に行われました。

その中身は、5回目は春に向けて準備している冬芽に関心を向けてもらいそれをまじまじと見、何になるのか想像させ、中をのぞくためにナイフで切り断面を見てみました。6回目は昨年度から始めた木工クラフトです。自然にあるもので自らの手で自分だけのものを作る喜びを

味わってもらいながら、森を守るため、間伐作業で出たものを活用することでその作業を促進させる仕組みを理解してもらおうと始めました。

写真は、第6回の支援を終わった後で、子供たちからお礼の言葉と手紙をもらっているところです。



お礼の言葉と手紙をいただきました

2 その他の活動

(1) いわき明星大学の学校林の管理及び整備

1月：9、16、23、30 支援者延8名

2月：6、13、20、27 支援者延8名

3月：6、13、20、28 支援者延8名

## お知らせ

第十三回通常総会のご案内

一・開催日時

平成一九年八月十八日

つづきん森の学校終了後

午後一時

二・会場

湯ノ岳山荘 研修室

右の通り総会を開催致しますので多くの方々のご出席をお待ちしております。

撮影H29.04.16



湯ノ岳山荘の桜ですこの中に「ヤマザクラ」はどれでしょう

# 明星大学自然体験プログラム

## 研修支援終える

木田 章一

いわき明星大学自然体験プログラム研修支援は、2008年に科学技術部の学生を対象に環境教育の支援を依頼され、2010年以降は学校林内に遊歩道を学生と一緒に整備しました。遊歩道沿には当会のプログラム班が樹木に番号札をつけた案内図を作成したり、スズメバチを捕獲するためのハチトラップの設置も行いました。また、学校林は中央台北小学校の総合学習支援の里山観察としても活用しています。

この学生の環境教育支援は2016年度までの9年間実施してきましたが、学部廃止により、明星大学の森の整備作業を含む学校支援は3月末で終わることになりました。これまで当会員の多くの方にご協力いただき感謝いたします。



明星大学演習林全景(駐車場より)



整備されたフィールドの一部

# ろうきん森の学校 若森秀樹

(平成29年2月19日～平成29年4月16日)

## I. 平成29年2月19日(日)(天候快晴)

### 1. 実施内容

①自然観察会、②里山の手入れ体験③野外料理

### 2. 参加者 40名

### 3. 実施結果

①自然観察会、

冬の寒さを耐えて春を待つ野草のロゼット探しの観察でした。

出会えた代表的なロゼットはタンポポ、アザミ、コウゾリナ、セイタカアワダチソウ、タネツケソウ等々。

また、梅の花が満開でした。林床にはもうすぐ咲きそうなシユンランを観察できました。

②里山の手入れ体験

バンガロー周辺で実施しました。先ず下刈りを行い手鋸で除伐を体験伐った木はチップパーで碎き森に戻し整理しました。



里山の手入れ(鋸で丁寧に刈取っています)



チップパーで伐った木を処理作業

③野外料理

本日は差し入れされた新潟魚沼産コシヒカリのご飯をいただきました。

## II. 平成 29 年 3 月 19 日（日）（天候快晴）

### 1. 実施内容

- ①自然観察会、②キノコの植菌体験
- ③野外料理④午後木工クラフト（希望者）

2. 参加者 45 名

### 3. 実施結果

#### ①自然観察会、

木の芽も赤く膨らんできた早春の観察会でした。春の到来を告げる花ウグイスカグラ、フキノトウ、キジムシロ、シュンラン等々が観察できました。



赤く膨らんだ花芽を観察

#### ②キノコの植菌体験

ほだ木の穴あけから植菌、ほだ木を運搬し仮ふせまで体験していただきました。

数量は、シイタケ（コナラ 35 本）、キクラゲ（アカメガシワ 35 本）

#### ③野外料理



シイタケの植菌

湯ノ岳山荘産キノコ早春の山菜（フキノトウ、ウド）の天ぷらを料理しました。



フキノトウ、ウドの天ぷら

## III. 平成 29 年 4 月 16 日（日）（天候快晴）

### 1. 実施内容

- ①自然観察会、②山菜採取、③野外料理体験
- ④木工クラフト

2. 参加者 50 名（今回初めて会員より一般参加者が多数となりました）

### 3. 実施結果

#### ①自然観察会と②山菜の観察と採取

快晴で絶好の花見日和、満開の桜（ソメイヨシノ）の下、5 班編成でフィールドに入り山菜の観察と採取のルールを含めて実施しました。

山菜の採取には食べられない毒草の説明後少量の採取を体験しました。



観察後採取した山菜の同定、ワラビ、ゼンマイ、コバノギボウシ、ツリガネニンジン、ヨモギ、アザミ、ヤブレガサ、ツクシ等 35 種を記録しました。

暖かくなり日本ヒキガエルやサワカギ等の生き物も数多く観察できました。

#### ③野外料理体験

山菜を主に料理でした。先ず、天ぷらはタラノメ、キノコ、ヨモギ、セイダカアワダチソウ等、湯ノ岳山荘産シイタケノ酒蒸し等美味しくいただきました。



山菜天ぷらシイタケの酒蒸し会食スナップ

## 自然観察班の活動

### 常緑樹の森の観察会 担当 深瀬元靖

1. 実施時期：平成29年3月26日（日）
2. 9時30分～12時
3. 実施場所：沼ノ内弁財天「賢沼」周辺
4. 参加者：18名（大人16名、子供2名）
5. スタッフ 9名
6. 実施内容

天気予報では、観察日の午前9時の降水確率は60%でした。

小雨決行と決めていたので観察会を実施することにしました。

観察日の当日に3名の申込みがあり、参加者は16名になりました。

観察日は今にも降りそうな空を眺めながら、各班8名の二班に分けて9時30分に出発させました。

観察会が終わるころ小雨に遭いましたが、ケガもなく無事に楽しく終わることができました。

12時までに戻った各班は、参加者から感想を聞いたのち自主解散しました。



常緑樹の観察会スナップ

### 参加者の主な感想

- ・常緑樹の代表である、古木のスダジイ、高木のタブノキ、モチノキ、アカガシ、モミ、カヤなどの葉や樹皮を五感で比較して、特徴が分かるようになった。
- ・準絶滅危惧種のシダや北限の希少な植物を知ることができた。
- ・お湯に入れたヒノキの香りを子供は嫌な臭い、大人はヒノキのよい香りと判れた。

次回は、ショウジョオバカマの花が観られる4月頃実施しませんか。（スタッフ）

## 金成公園岩出の郷森林整備

2月26日（日）午前中にいわき金成公園里山づくり協議会主催（会長松崎和敬）（注1）による金成公園「岩出の郷」で森林整備が実施されました。

参加者は30名で林床の笹刈を主に午前中実施しました。

作業を終えたお昼には湯の岳産のキノコ汁がふるまわれました。

整備された区域はカタクリの自生地で開花は4月初旬ごろと思われます。年々花は増加しているので楽しみです、是非ご覧ください。



笹を刈取る参加者



今年のカタクリの花



（注1）いわき金成公園里山づくり協議会メンバー  
NPOいわき竹プロジェクト、いわき明星大学化学技術科生命科学コース、岩出の郷里山クラブ、NPOいわきの森に親しむ会、いわき市レクリエーション協会、福島工業高等専門学校建設環境工学科、いわきキノコ同好会、いわき市健康歩く会。

## 平成 29 年度「ろうきん森の学校・自然観察班」事業計画について

平成 29 年 2 月 19 日に役員会にて、平成 29 年度「ろうきん森の学校・自然観察班」の事業計画が提案審議され決定されましたのでお知らせいたします。

### I. ろうきん森の学校(開催は毎月第3日曜)

桑原敏和

月	日	自然観察会のテーマ(ポイント)	担 当	自然体験	備 考
4	16	食べられる野草探し(山菜と毒草を覚える)	古川、佐藤行)	山菜採り	同時進行
5	21	新緑の森歩き(新緑の素晴らしさ、生き物の活動)	深瀬	森林療法	〃
6	18	梅雨期の観察会(雨ならばでの生き物)	佐藤(幸)	草木染め	各々進行
7	16	虫を探してみよう(虫の活動と観察)	津崎、桑原	布ぞうり作り	〃
8	20	セミの抜け殻調べ(抜け殻を集め種類を調べる)	鈴木(正)、(烈)	コースで和紙作り	〃
9	17	シダの観察会(シダの生態や酒類を観察)	深瀬、古川	サツマイモ堀り	〃
10	15	キノコを探そう(キノコの生態・食・毒・採取し同定)	佐藤(行)、(幸)	キノコ採集、同定	同時進行
11	19	ドングリを食べてみよう(ドングリを拾い試食)	津崎、佐藤(幸)	ドングリクッキー作り	〃
12	17	ミイチャーゲーム(自然を理解出来るhゲーム)	古川、鈴木(正)	そば打ち体験	各々進行
1	21	冬芽の観察(冬芽や葉痕を観察)	佐藤(幸)、津崎、	餅つき、団子さし	〃
2	18	ロゼット探し(私欲物の寒い冬を過ごす知恵と工夫)	佐藤(行)、(幸)	森の手入れ、丸太切	〃
3	18	早春の野草観察(春を告げる野草を探そう)	鈴木(正)、津崎、	キノコ植菌	〃

注 1: 実施内容は天候、資材食材調達、人数の都合で中止や延期することがあります。

注 2: 自然観察会と自然体験はテーマによって同時進行と各々に行うことがあります。

### II. 自然観察班

佐藤幸二

月/日	曜	名称	場所(公園名)	責任者	募集人員 (一般の方々)	備考
5/28	日	海浜の観察会 (浜ダンゴムシを探そう)	サンマリーナ	津崎	30名	要事前調査
6/17	土	ゲンジホテル観賞会	彩花園	桑原	40名	要事前調査
6/24	土		(さいかえん)	津崎	40名	
8/19	土	夜の生き物観察会	県営 いわき公園	佐藤(行)	40名	
10/22	日	秋の自然観察会	21世紀の森	鈴木(正)	30名	
11/26	日	秋の自然観察会と 落ち葉のカレンダー作り	湯ノ岳山荘	猪村 佐藤(幸)	20名	
12/23	土	木工教室 ミニ門松作り	湯ノ岳山荘	桑原	20名	

# 国際ワーキングキャンプ

松崎和敬

2月28日から3月13日までの2週間という期間で本会が日常的に活動している内容についてひととおり体験してもらいました。

参加者の中には鎌や鋸を使うことがはじめての者もいましたがやる気のある者ばかりでしたので想定以上の作業振りでした。活動の内容は次のとおりです。

メンバーについて。 ○リーダー：日本人(いわき出身)。事務局1名。

参加者・海外： ・タイから女性1名(都合により途中帰国)。 ・メキシコ:男性1名

・日本:女性2名、男性1名。

月/日	午前	午後	夜	参加者		
				ワーキングキャンプ参加者	地元メンバー	計
2/28	—	6:00 山荘着	ミーティング	5	1	6
3/1	観察コースの笹刈	雑木の除伐	—	7	2	9
3/2	ススキ除去作業 雑木の除伐	倉庫の整理	地元メンバーとの交流会	7	5	12
3/3	植樹木周りの草刈り	育樹のための材料作り	—	7	2	9
3/4	伐木の処理	観察コースの笹刈	—	6	2	8
3/5	観察コースの整備	観察コースの整備	—	5	3	8
3/6	農場の整備	竹伐採作業	—	5	14	19
3/7	被災地および海岸林見学	被災地および海岸林見学	—	5	2	7
3/8	伐木の処理作業	ススキ除去・雑木の除伐	—	5	2	7
3/9	雑木の除伐	自然観察会	—	5	5	10
3/10	苗畑の土作り	伐木の処理	—	5	2	7
3/11	ススキ除去作業	薪置場の整理	—	5	3	8
3/12	観察コースの整備	木工クラフト体験 チップ処理作業	地元メンバーとの交流会	5	8	13
3/13	清掃	山荘出発	—	5	1	6



ススキの除去作業



雑木の除伐作業

## 湯ノ岳山荘水不足奮闘記

山荘管理人 松本 學

### 1 湯ノ岳山荘水道の現状

湯ノ岳山荘の水は、林業研修センター開設以来、40年間湯ノ岳山頂からの水源による簡易水道を利用し現在に至っている。これまでも年に2月と8月に渇水となっていたが、今年は正月以来4月になっても、水不足の状況が続いた。

しかし、宿泊者は、水不足により山荘の名物ヒノキ風呂に入れず、湯本温泉の利用を余儀なくされても、水不足について理解してもらい大変ありがたい。

### 2 水漏れ発見作業開始

今年1月4日、年末年始6日間の休荘開け（これ以外は年中無休）、水道使用量を確認すると16m<sup>3</sup>使ったことになっていた。これは1日当たり2.3m<sup>3</sup>になり、時間当たりになると100ℓとなる。これはおかしいと思いついどこかに水漏れがあるのではと疑った。

しかし、給水管の図面がない。どこに管があるか通っていきそうな箇所を掘っては埋め掘っては埋めし、そこらじゅう穴だらけになってしまった。

### 3 水不足の対策

山荘の上の受水槽（約10m<sup>3</sup>槽）は1月15日からゼロが続き、3月27日の降雨後にやっと半分まで溜まるようになった。受水槽がゼロの間、午後4時から朝8時まで山荘へ入るバルブを閉め、毎時100ℓの漏水を減らすことにした。もちろんヒノキ風呂は入れず。最もひどい時には、ポリタンクに水道水を溜めたものを炊事等に使うてもらい、トイレは雨水を利用するなどして対応した。

### 3 おわりに

4月18日、待望のまとまった雨が降り、4ヶ月振りに受水槽が満水になった。写真は湯ノ岳山頂の取水口を写したものであるが、少ない沢水をパイプで集水タンクに引き込み山荘に送っている。

震災で水のありがたさが分かったように、

山荘は水が命である。今後も今回のことを教訓にして日頃より節水に努めたい。



湯ノ岳山中の取水口(少ない沢水をパイプで集水山荘まで約2Km引いております)

### 編集後記

桜も散りはじめ、ほんの数週間前までの寒さをすっかり忘れてしまうようなよいお天気です。先日のろうきん森の学校にもたくさんの方が参加してくださいました。みんなで歩く山の散策は、ゆったりと、時々足をとめて、植物や小さな小さな花をながめながら、わいわいがやがや楽しいひとときです。

散策する道は自然とできているわけではありません。寒い冬も暑い夏も、整備班の方々が山の手入れをしてくださっています。農業班で収穫したお野菜を少し分けていただいて野外料理で使わせていただいたり、キノコ班の方が丹精こめて育てたきのこでお味噌汁を作ったり、会員の方々の愛情がたくさんつまっています。湯ノ岳散策の他にも海辺や常緑樹の森の散策など、いろいろなイベントが行われます。皆様のご参加をおまちしています。

(鈴木小百合)

(発行) NPO 法人いわきの森に親しむ会  
(発行責任者) 木田章一 (編集担当者) 鈴木小百合  
(事務局) 〒972-8326 いわき市常磐藤原町湯ノ岳2  
湯ノ岳山荘内

TEL/FAX 0246-44-3273

E-mail: yunodake@gray.plala.or.jp

HP: <http://iwaki-mori.jimdo.com/>